

# 地質調査技士に合格して

大泉開発(株) 相馬 吉行



今回、地質調査技士試験を3度目の挑戦でやっと合格できました。

合格発表日に結果をインターネットで確認し、自分の受験番号が合格者の中にあっただのを見た時は、最初は信じられませんでした。受験番号を何度も確認し、自分が本当に合格したことを理解できた時は、飛び上がりそうなくらい嬉しく、ついつい年甲斐もなく、嬉しすぎて会社で大声でガッツポーズをし、叫んでしまいました。

今回、合格できた背景には、以前、あるJVの現場を担当し、新規入場者教育を行った際、現在持つ資格を確認時に地質調査の現場に入るのに、調査技士の資格を持っていない事に疑問を持たれ、同時に調査技士の資格を持っている上司・先輩方に頼らなければ、JVの現場を担当できない自分に歯がゆさを感じ、如何に地質調査技士という資格が重要かということを感じた出来事でした。

今年こそは合格する決意を固め、今までの勉強方法を再度見直し、受験半年前から、ホームページの過去問をダウンロードし、選択問題の過去問と解答をテキストやインターネット等で調べ、記述

式問題の対策では、過去問はホームページからダウンロードができましたが、解答例は無く、あくまでも自分なりの答えが必要なので、テキスト等を参考にして文章化しました。

当初、試験勉強をはじめた頃は、自分が携わった事のある業務は理解できましたが、あまり関わらなかった業務の知識の無さを実感し、知識を得るために徹底して調べ、覚える苦労はしましたが、徐々に新たな知識を得ていき、試験勉強が楽しく感じていきました。

ある程度自信がついてきていた頃、受験に対する期待の方が大きかったんですが、試験当日、試験を行って、まだまだ勉強する部分があったのだと、自分の知識不足を痛感しました。

合格したい一心で、受験終了時間まで諦めず、しつこく何度も解答を見直しました。

今回の受験では、多くのことを学べる経験をさせていただきました。

まだまだ覚えることはたくさんありますが、今回、覚えた知識を業務に生かし、教えられるばかりではなく、指導できるように技術者として成長していきたいです。

## 国際航業（株） 新谷 広紀



今年度、地質調査技士資格検定試験を受験し、無事合格することができました。今回は、受験に際し苦労したこと、勉強になったこと等を、これから受験される方の少しでも参考になるように、そして自分でも忘れないようにするために、体験記として書き残したいと思います。

### 【試験勉強】

私の試験勉強は、試験の約1か月前に行われた事前講習会を受講したところから始まりました。

勉強方法は、過去問を解きつつ、分からないところを事前講習会受講時にいただいた分厚いテキストで調べる、といったことが基本でした。このテキスト、過去問の内容とその解答がよく網羅されており、特にボーリング機材や物理試験については、今まで勉強・経験不足だったこともあり大変参考になりました。ボーリング機材等で、物のイメージが湧かないときはボーリングポケットブック等も参照して確認しました。また、実際に見たりやってみたりしないとイメージしづらい掘進技術や試験方法等は、YouTubeで検索すると初学者向けの解説動画が見つかることがあります。こちらも非常に勉強になりました。

記述試験対策は試験1週間前から行いました（記述試験は2題のうち1題が倫理、もう1題が地質全般に関する問題）。倫理については倫理綱領をひたすら書き、暗記して試験に臨みました。また、地質全般に関する問題は自身の経験を記述するような内容のことが多いとのことなので、自分の過去の調査業務の内容を一通り確認することにしました。

なお蛇足になりますが、事前講習会テキストははっきり言ってどこに何が書いてあるのか分かりにくいのが難点です（例えば、杭基礎の分類は2章にあるのに対し、構造物の基礎選定は5章にある、

等…）。次年度以降のテキストには、ぜひ索引をつけて頂きたいと思います。

### 【試験当日】

事前講習会で聞いた通り、試験会場の暑すぎ、寒すぎに備え、温度調節できる服装で挑みました。私は特に問題はありませんでした。空調が直接当たる席では寒かったようで、途中で会場の温度が上げられていました。

実際の試験問題では、択一問題は過去問やテキストの内容から多く出題されていたと思います。時間も充分あったため、答えに自信のない問題は問題番号に印をつけ、後でじっくり考えるようにしました。記述試験も時間は充分にあり、また、ある程度想定していた問題が出題されましたが、書き直しとなると時間も手間もかかるため、記述する内容や方針を決めてから解答するようにしました。

### 【受験後】

択一問題の解答が公表されてすぐに自己採点しました。合格点は超えていましたが、分からなかった問題は全く聞いたことのないもの、というより今まで曖昧になっていたものが多く、分からないことは放置しない、という基本を痛感しました。また、業務の資料作成等で要点をまとめる文章力等が、記述試験にも生かされると感じました。

### 【終わりに】

合格発表で自分の受験番号を見つけるまではドキドキしましたが、見つけた時は本当に嬉しかったです。試験は終わりましたが、今後も知識の習得や技術の向上にますます努めていきたいと思います。

最後になりましたが、受験体験記の執筆という大変貴重な機会を頂きましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

## 応用地質(株) 清水雄介

私は何度か挑戦し地質調査技士(土壤・地下水汚染部門)に合格しました。

不合格時は何とかなるだろうと思いつき、ほぼ準備もせず試験に臨んでいました。それは、土壤・地下水汚染に関する問題は、日々の業務に関連する内容が多いため、何とかあったのですが、それ以外の問題は全く歯が立たず不合格となりました。

そこで私は、まず事前講習会を受講しました。事前講習会は受験部門向けでは無く、現場技術・管理部門でしたが、部門共通の問題もある程度出題されるので、受講が役に立ちました。事前講習会

のテキストは非常にわかりやすく参考になり、午前の部の択一問題は自信を持って回答することができました。

午後の部の記述式試験は近年、倫理綱領に関する問題が必ず出題されていたので、ひたすら暗記しました。また、倫理綱領とは別に、選択問題として土壤・地下水汚染に関する問題は、業務で得た知識で十分対応できましたので、日々の業務に真面目に取り組むことが大切だと感じました。

今後は、技術者としてさらに成長し後輩技術者に伝えていけるよう、真摯に業務に取り組んでいきたいと思えます。